

このページでは、環境大生が取り組む活動や、参加してきたセミナー、イベントについて報告します。今回は、当センターでインターンシップをしている経営学部の大野さんと環境学部の川口さんが報告します。

11/3.4 「第5回みちのく薪びと祭りin 秋田梅内」 経営学部2年 大野 純平

薪びとまつりは東北の薪愛好家が集まり、薪に関する情報交換や勉強会を行う場です。毎年東北各県立ち回りで行い2018年は秋田県で行われました。講演会では、株式会社DLDの木平さんから、会社で行っている薪配達で薪を普通の燃料にする取り組み、薪の含水率の研究結果などのお話がありました。研究によると薪を割れば3ヶ月程度で適切な含水率になるということでした。次に行われた分科会は、「生業」「技術」「薪ストーブ愛好家」の3つのテーマに分かれ、私は「薪ストーブ愛好家」に参加しました。ここでは焚き付けには何を使っているか、薪ストーブを広めるにはどのような取り組みをすればよいかなどが話題に上がりました。話のそれぞれ共感する部分、反論する部分がありとても盛り上がりました。



分科会の様子



薪づくり抽選会の様子



全体集合写真

2日目はフィールドワークに出かけ、ニツ井宝の山プロジェクトの一部を見学させていただきました。薪づくり抽選会という、くじを引いて割り振られた区画の木を切るというものが行われていて、平等に薪を手に入れる手段としてとてもおもしろい試みだと思いました。薪素人の私が実際に参加して、薪に対する思いが溢れている会であったと感じました。様々なエネルギーがあるなかで、改めて注目されるべきエネルギーが「薪」であると感じました。

12/2 セミナー「SDG sと私たちの未来について考える」 環境学部2年 川口 森生

12月2日、SDGsを題材とした講演会「SDGsと私たちの未来について考える」が環境大学にて開催されました。主催は鳥取ユニセフ協会で、講師はユニセフ協会の一員である久木田純さん。久木田さんの人生とユニセフの活動を絡めて講演会とワークショップを行い、SDGsとは何か、自分たちにできるSDGsは何かということに参加者とともに学び、深め合いました。講演では、久木田さんが実際に取り組んだストーリーテイルドレンの支援とSDGsとを絡めたお話や、21世紀に向けた世界変動に伴う人々の暮らしの対応力が求められていることを熱く語っていました。



SDGsとは 持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲットからなる、国連開発目標のことです。

そのあとのワークショップでは、「① 22世紀までに人類は生き残れるのか？」と「② 鳥取でできるSDGsとは？」の2つのお題が出され、話し合ったことを全員で共有するグループワークを行いました。私のグループでは①はSDGsというゴールの指針をきちんと生かすことが重要だという意見がでました。②は自然やコミュニティを生かすといった鳥取ならではの地域的な特徴を生かしてSDGsの達成に向け活動したいというアイデアがでました。たくさんのアイデアや意見を交流し合い、SDGsを自分事として考える良い機会となりました。



ワークショップの様子